甲州市の人や暮らしを伝える

甲州らいふ

2015 vol.02 koshulife

わたしと甲州市。

ご自由にお持ちください
TAKE FREE

Contents

03 甲州らいふについて

05 甲州らいふ♪ つたえ隊

06 Interview
甲州市地域おこし協力隊の「わたしと甲州市。」

10 かつぬま朝市

12 甲州市ワイナリー探訪
vol.01 機山洋酒工業

15 甲州市を感じるお店
蕎麦街道 砥草庵

18 甲州市の農家
マル神農園

20 FiND it! KOSHU CiTY

22 TO WRITE
about City of KOSHU

27 甲州市お役立ち情報

30 甲州市 MAP

31 Photo DIARY
甲州らいふ♪ つたえ隊が見つけた魅力

甲州市の人や暮らしを伝える

甲州らいふ

それぞれの季節で様々な表情を持つ
自然と歴史と人が息づくまち、甲州市。

山梨県甲州市は、日本百名山で知られる大菩薩嶺をはじめとする秩父山系の自然景観に恵まれ、盆地特有の内陸性気候を利用したぶどうやもも、ころ柿などの果樹栽培が盛んな日本でも有数の産地であります。また、戦国の雄・武田信玄公の菩提寺として知られる恵林寺、ぶどう発祥伝説の国宝大善寺、江戸時代に甘草を栽培していたことから、甘草屋敷として親しまれている旧高野家住宅など、歴史と文化に彩られた重要文化財が数多く存在しています。地理的にも東京から 100km 圏内。電車でも車でも約 90 分あれば来ることができます。

『甲州らいふ』では、この土地に“ふつう”に息づく、自然や歴史、まち並みや人の想いを伝えていきます。甲州市に来たことがある人も、今から知って来る人も、ありのままの甲州市を感じて、そこから自分ならではの「わたしと甲州市」を見つけてください。

甲州市の四季を感じる、楽しむ。

春

4月12日 恵林寺信玄公忌「しんげんさん」
4月中旬 大菩薩山開き「介山祭」
4月18日 向嶽寺秋葉神社大祭「あきやさん」
4月29日 放光寺大黒天祭り
4月第4日曜日 甲州市ふるさと武田勝頼公まつり
5月8日 **大善寺 藤切り祭り（関東三大奇祭）**

約1300年前の行者の大蛇退治に由来します。5メートルの高さから切り落とされた藤つるをめぐり激しい争奪が行われます。

5月中旬 大菩薩トレッキング「新緑編」

1月14日 藤木道祖神太鼓乗り
1月中旬 田野十二神楽（県指定無形文化財）
1月中旬 一之瀬高橋「春駒」（県指定無形文化財）
2月11日～4月18日 **ひな飾りと桃の花まつり**

早春の訪れとともに、春花が咲き誇る季節にかけて甘草屋敷を彩るひな飾り。江戸・明治・大正・昭和時代のひな人形や、つるし雛がところ狭しと並ぶ様子は圧巻です。

夏

6月30日 **菅田天神社 みそぎ祭り**

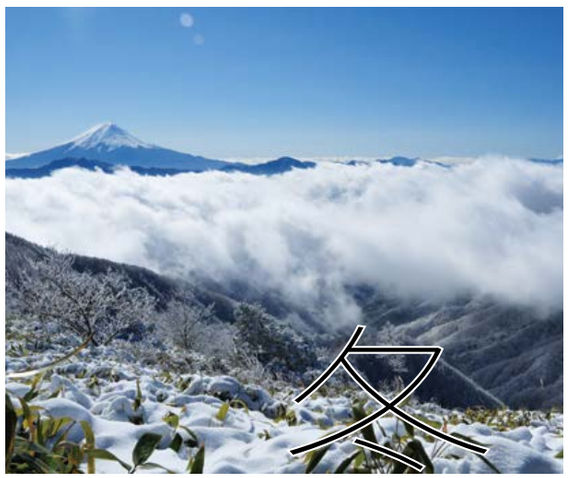
茅の輪をくぐって心身を浄める祭りです。氏子たちは形代を持って神社に参詣し、納めた形代は塩川へ流されます。
※形代（かたしろ）…紙を人形に切ったもの。

9月中秋の名月 塩山温泉祭り
10月第1土曜日 **甲州市 かつぬまぶどうまつり**

喜びにわく収穫の秋。1年のぶどうの豊作に感謝した祭りが行われます。

10月上旬 大菩薩トレッキング「紅葉編」
10月第3日曜日 甲州フルーツマラソン大会
10月第4日曜日 甲州市およっちょい祭り
11月上旬 かつぬま新酒ワインまつり
11月上旬 武田陣中ほうとう祭り

冬



秋

現地で取材をしているのは…

山梨県立大学プロジェクトチーム
「甲州らいふ♪ つたえ隊」

みなさんは甲州市といえば何を思い浮かべますか？ ぶどうやワインだけをイメージする方が多いのでは？しかし、実際には他にもたくさんの魅力に溢れています。この無料情報誌「甲州らいふ」では、私たち「甲州らいふ♪つたえ隊」が発見した甲州市の魅力を発信していきます。甲州市を知っている人、知らない人。移住を考えている人、そうでない人。この情報紙を読んだ色々な人に魅力を伝えられたら嬉しいです。皆さん、これを読んでぜひ一度、甲州市に来てみてはいかがでしょうか？

公立大学法人　山梨県立大学　http:// www.yamanashi-ken.ac.jp

発行元：甲州市役所 政策秘書課　　**制作／取材サポート：**BEEK DESIGN

Interview

甲州市地域おこし協力隊の「わたしと甲州市。」

山梨県外から、甲州市の地域力の維持・強化を図る目的のために自ら志願してやってきた、地域おこし協力隊の３人。どうして甲州市を選んだのか、赴任して地域に入って活動することの大変さ、喜びなど、３人それぞれに甲州市への今の“想い”を聞いてみました。

Reporter it…

大塚郁弥さん　渡辺智実さん　丸山愛さん

甲州市地域おこし協力隊 profile

石井修平さん（32歳）

甲州アルプス・小金沢山を登りに来た際に出来た縁がきっかけとなり、甲州市地域おこし協力隊に応募。2014年８月から地域おこし協力隊となる。

山口祐子さん（33歳）

田舎に住みながら、自分のやってみたい絵にチャレンジできると思って応募し、2014年８月から地域おこし協力隊として活動。

山田直孝さん（28歳）

「30歳前に農業やいろいろな新しいことをやってみたい！」と思い、地域の事を知る事が大事と考え応募。2015年７月から地域おこし協力隊に。

大塚　甲州市の地域おこし協力隊に応募した理由やきっかけは何ですか？

石井修平（以下、修）　ピンポイントで甲州市とは絞っていなかったんですけど、山が好きだったのと、40歳くらいで山梨か長野に住みたかったんです。たまたま山梨に山登りに来た時に知り合った人と縁がつながって、地域おこし協力隊に入りました。

山口祐子（以下、祐）　私は去年の５月に甲州市の畑を手伝いに行ったときに、前任の協力隊の人に話を聞いたんです。ちょうどそのときに、自分で描いた絵の作品集を持ってたんですよ。「絵を描けるならぶどうやワインの絵を描いて甲州市をPRしてみない？」と言われて、そのつながりで協力隊として甲州市に来ることになりました。

山田直孝（以下、直）　僕が甲州市に初めてきたのはさくらんぼ狩りとBBQをしに来た時でした。知人が甲州市など山梨県の各地を紹介してくれ、その友人と地域おこし協力隊の人につながりがあり、いつかは移住したいと思っていたので協力隊の仕事を始めることを決めて甲州市に来ることにしました。

大塚　甲州市に来る前は、甲州市についてどのようなイメージを持っていたんですか？

修　武田家や、信玄というイメージしかなかったです。まず、勝沼や塩山が甲州市であるということを知らなかった。勝沼だとやはりぶどう畑のイメージです。

祐　私は、勝沼や塩山もここに来る直前まで全く知らなかったですよ。

「移住してよかったとはっきりと言えます」

渡辺　実際に甲州市に住んでみて、いろいろ印象は変わりましたか？ 甲州市にはどんな人が多いんですか？

祐　強烈で濃いキャラの人が多いと思いました。「うちのぶどうが一番！」というような、自分のことを好きで、誇りを持っている人がたくさんいるんです。

直　自分の意思を貫くという人が多い気がします。故郷（青森）を思い出すような親しみやすい人も多いです。

修　「面倒見がいい」ということは言えると思います。みなさんすごく生活を心配してくれます（笑）。ありがたいことです。

直　甲州市に来てすぐに、「住むところはどこなの？」とみなさんが聞いてくれたりと、ここに来てまだ間もないですが僕も人との距離の近さを感じています。

丸山　では、この甲州市という地域に加わっていく中で、苦労した点はありますか？

祐　最初は、住んでいる人との距離感がなかなかつかめなかったです。私は自分から入っていくタイプなんですけど、入っていきすぎると逆に押し返されてしまったり。でも、この地域が大好きで一生の付き合いになるので人と人とのふれあいは大切にしていこうと思っています。

修　僕も人間関係ですね。東京の場合は、嫌だと思ったら関係をゼロにできるけれど、地方に住むとどんな人とでも１％の関係を残しておかなければならない。最初は苦労しましたが、「新参者」という立場を理解して挨拶などしっかりしました。そうすると人間関係や距離感が自然とうまくつくれるようになれた気がします。

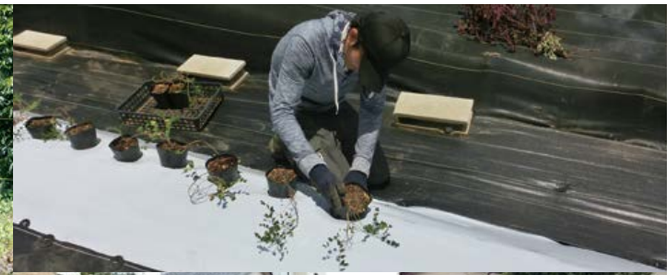
直　来たばかりで何もわからない中、準備する期間もなく急に物事が決まったりしたのでそこは少し苦労しました。待っていても動かないことが多いので、積極的に自分から質問するなど、自分から発信していければいいなと思っています。あと、車ですね。ここに来るまでは１年に１回乗るか乗らないかという感じだったのですが、車がないと生活ができないので頑張りました。

大塚　コミュニティに溶け込むのにどのくらいの時間がかかりましたか？

修　僕はどちらかというと人見知りなので、馴染むのには時間がかかるだろうなとはじめから思っていました。それから地域の人も様々。見ず知らずでも気にせず接してくれる人もいれば、そうでない方ももちろんいます。なのであまり時間は気にせず、活動や日々の暮らしの中でそれぞれのスピードで馴染んでいければいいかなと思っています。地域の中に入っていく努力は今も継続中です。

祐　時間は結構かかりました。私、今年の４月に、かつぬま朝市で結婚式を挙げたんですが、そこで一気にみなさんとの距離が縮まったのを実感しています。自分を知ってもらう機会ができて一歩踏み込めたかな。

直　まだ、あいさつ程度しかできていないので、変に踏み込みすぎないように相手の想いや考えを理解しつつ、機会をたくさんつくり時間をかけて関係を築いていきたいです。



（写真左）ぶどう畑で傘かけをする山口さん。一緒に作業しているのは旦那さんで、今年かつぬま朝市で結婚式を挙げた。この結婚式が彼女と地域の人を近づける、さらなるきっかけになったそう。（写真中央）石井さんが管理するそば畑。秋の収穫間際、白い花が咲き誇っていた。ここの畑では、そこまで広くないため、全て手作業で作業している。　（写真右）江戸時代に薬用植物である甘草(カンゾウ)の栽培をして幕府に納めていた重要文化財『甘草屋敷』を伝える活動をする山田さん。甘草も育てはじめた。

渡辺　甲州市の地域おこし協力隊として、主にどのような活動を行っていますか。

修　諸説あるんですが大和の栖雲寺がそば切り発祥の地とされているので、そばを使って甲州市をアピールする活動をしています。塩山でも土地を借りてそばを作っていて、甲州市のそば屋を賄えるくらいの収量を目指しています。もう１つの活動が、甲州市観光大使の天野和明さんが名付けてくれた「甲州アルプス」の広報活動です。甲州アルプスは、百名山である大菩薩嶺を含む黒川鶏冠山から滝子山に連なる山嶺を指します。現在は、県内外の登山愛好家の方々に向けて行っている登山イベントの事務局を担当しています。富士山、南アルプス、甲府盆地の眺望が素晴らしく、初心者でも歩きやすいコースがあるんですよ。

祐　私は“絵を使ってぶどうとワインの歴史を発信する”ということをしています。週２、３回農作業として、ぶどう畑に行ってぶどうの１年のサイクルを勉強しています。去年の８月に来た時はぶどうの絵を 17 枚描いて売店に飾りました。今はかつぬま朝市を手伝っているので、勝沼ぶどう郷駅に私の描いた朝市の看板と甲州八珍果の絵を５枚飾っています。また地元ワイナリーから依頼があり、心を込めて畳２枚分くらいの絵を描きました。

直　甲州市に来たばかりなので、まず甲州市について先輩方に案内してもらったり、それぞれの朝市などに顔を出したりしている段階です。塩山の周りのフットパスで重要なお寺を回ったりもしました。塩山では甘草が有名なので、地域おこし協力隊としてのメインの仕事として、甘草の歴史など知識を得たり、勉強してそれを発信していこうと考えています。

丸山　今後新しく取り組みたいこともありますか？

祐　自分の絵で勝沼をジャックしたいですね（笑）。まずは勝沼ぶどう郷駅に絵を飾れたのですが、今後は多くのみなさんに勝沼の良さを知ってもらおうと販売もかねて広めていきたい。

直　私も今後、地元の人と協力しながら、甲州市で甘草を使った商品や料理教室、甘草屋敷を使ったイベントなども行っていきたいです。全国でやっていないことなので時間をかけて取り組みたいです。「甘草と福祉」や「甘草と健康」をテーマにしてできることがあればコラボしてやっていきたいです。

修　大和にそば切り発祥の大きな石碑もあるので、もっとそこを PR して、そばの加工品の開発も考えているところです。そばを打つのも興味がありますね。

大塚　それぞれの地域で役割を担っているんですね。そんな甲州市のこれは魅力だなと思うものはなんですか？

修　圧倒的な緑の多さですね。東京だと街中で緑が視界に入ってくることはないですから。この緑の色の濃さが魅力ですね。ほんとうに感動しますよ。あとは季節ごとの果樹が風景を演出してくれるんですよ。ももの花が咲いたり、ももが実ったり、少し前だとさくらんぼとかも。その先に甲府盆地、南アルプスが見える景色が最高ですね。

祐　私も景色ですね。どこを走っても絵になる景色が好きです。本当に絵になります。駅を降りてもだし、この辺（ぶどうの丘）をぐるーっと回ってもいいですし、いろいろな角度で見えて綺麗なんですよ。果樹が季節ごとに演出してくれる。

直　景色には賛同です。伸びをして、深呼吸できる場所なのもいいですね。空気を吸えば、緑の匂い、果樹の匂い、自然の匂いもするし、山に行けば山の匂いがする。

祐　あとは人。甲州市は人が魅力的なんです。

直　「こっちに来て何もわからないでしょ」と地域のおじいちゃん、おばあちゃんが気にしてくれるので、家族のようなつながりを地域に感じます。

石　人間関係が濃いので、ここでは人間関係をないがしろにはできないです。人は一人では生きていけないですし。

祐　ここ１年で前より確実に甲州市を好きになりましたね。本当に甲州市に移住してよかったとはっきりと言えます。

修　賛成！

丸山　最後に甲州市に移住を考えている方にメッセージをお願いします。

祐　とりあえず来てみるといいですよ。

修　東京から日帰りで来れるのはメリットですよね。ワイン好きならワインを飲みに来ればいいし、歴史好きなら歴史を調べに来ればいいし。

直　東京は何か買わないとできないけど、甲州市は自分で何かを作れるんです。それは物に限らず、人間関係も。自分で自分の暮らしを作るってことですね。

3 人の活動は、Facebook でチェックできます！

https://www.facebook.com/pages/ 甲州市地域おこし協力隊/168216709911943

ここにしかないものを求めて。住民が“勝手に”始めた人と人との交流の場。

かつぬま朝市

Reporterは…

鶴田修平さん

岡野佳歩さん

毎月第１日曜(１月を除く)に開かれるかつぬま朝市。2003年、地元の有志４人が地域の野菜をかき集めて始まったこの朝市は、いまや出店するのもキャンセル待ちも出来ないほどの人気に。。「遅刻」「早退」「ドタキャン」もOKと、限りなく決まり事が少なく、人が多く来ても場内の雰囲気がとても心地いい。そんな朝市の魅力を代表の高安一さん、出店者のみなさんに聞いてみました。

鶴田　かつぬま朝市をはじめようと思ったきっかけは、どのような動機だったのでしょうか？

高安(以下、高)　東京から移り住み、果樹地帯の勝沼で畑に囲まれた新興住宅地に住むようになりました。近隣の農家さんが野菜や果物を沢山持ってきてくれて、あとはご近所さんに配ってね、と頼まれることがありました。預かった野菜を配ったけれど、配られたお宅の新住民には帽子やタオルをかぶっている農家の人がみんな同じ人に見えてしまって、すれ違ってもあいさつができない。だから私のところに持ってきてくれる農家の人は、私が本当に配ったのか疑うようになりました。そこでお互いの顔が見える関係を作りたいと思いました。朝市をやって農家の人たちが野菜を直売してくれれば農家と住民の交流の場が出来ると思い、かつぬま朝市が始まりました。

鶴田　地域の人々の交流の場として誕生したのですね。今では市外や県外からの人達も多く見られ、地域を超えた交流の場となっていますね！

岡野　出店数はどのくらいなのでしょうか？

高　現在200近くの出店数があります。出店数は年々増え、今では農作物にとどまらず様々な出店が見られるようになりました。これはだめとかこうしなきゃいけないとかそういう固定概念に捕らわれたくないんです。目安としてベジマ(野菜市)・フリマ(蚤の市)・パフォマ(芸の市)に分けていますが、みんなが自慢したいものを持ち寄ればそれが市になる。何かをしたい人に機会と場所を提供できればと思っています。

岡野　何でもありなのですね！ 確かに、みなさん自慢げに商品の説明をしたり技術を披露したり…ついつい見入って買いすぎてしまいます(笑)。

鶴田　今後の展望は？どんな場所であってほしいと思いますか？

高　長く続けていくこと。困難にぶつかったり朝市が続けられない状況になったりすることがあるかもしれません。問題を１つ１つ解決して強くなっていきたいですね。朝市に行けば誰かに会える。子供から高齢者まで世代を超えた、そんな交流の場であってもらいたいです。

岡野　「こんなステキな空間を作ってくれてありがとう」出店者さんのそんな心の声が聞こえた気がします。

鶴田　この朝市に来る人たちはみんな笑顔で楽しそうでした。高安さん、ありがとうございました！

毎月第１日曜日開催(１月を除く)
開催場所：山梨県甲州市勝沼町勝沼2830-3
(シャトレーゼベルフォーレワイナリー勝沼ワイナリー)
開催時間：午前９時から正午まで

甲州市の出店者のみなさんにもいろいろ聞いてみました。

ほうとう娘さん

ふたねや製麺所

●朝市の魅力は？…　お客様や出店者との交流の場になっているところ。朝市は、市外の人や県外の人に市内の観光地を紹介するなど、「ミニ観光課」のような存在になっているところ。

●甲州市の魅力の発信は？…　ふたねや製麺所の商品自体をツールとして、私も甲州市を一緒にPRしていきたいです。

山梨県甲州市塩山上於曽1023-3　☎0553-33-2474

塩の山ファーム

●朝市の魅力は？…　インターが近いということもあり、たくさんの人が集まってくること。

●甲州市の魅力は？… 私は東日本大震災後に山梨に移住してきました。景色の素晴らしさで移住を決めたのですが、地域の人とのつながりができてから、甲州市での生活がとても楽しくなりました。

山梨県甲州市塩山千野2203-1　☎0553-33-3115

（左）三森悦子さん、（右）右大島節子さん

あいあいクラブ

●朝市の魅力は？…　人と人とのふれあいが豊かなところがいい。甲州市は人間関係がとてもいいところが好き。

●今までとこれから…　2015年7月5日現在、128回の歴史を誇るかつぬま朝市に第1回から参加している。今後の目標は勝沼に来てよかった、と思ってもらうことをしていきたい。そしてみんながニコニコできる甲州市にしたい。

山下和樹さん

大泉葡萄酒

●朝市の魅力は？…　朝市限定のワイン(地元の農家が作った勝沼産のぶどうを使用)を喜んでお買いあげいただけることが嬉しいです。早々に売り切れることもしばしば。

●甲州市の魅力は？…　1300年のぶどうの歴史と140年のワインの歴史があり、ワインをはじめ、第1次産業から第6次産業までが地域に根ざしていることが魅力。

山梨県甲州市勝沼町下岩崎1809　☎0553-44-2872

甲州市外から何度も出店する理由は？

勝沼のもっちさん（望月省吾さん）

3時間ひたすらマンドリンを演奏し、その音色で訪れる人々だけでなく、出店者をも楽しませる「勝沼のもっち」こと望月省吾さん。かつぬま朝市に来て演奏することで元気になる、朝市はパワースポットのような存在だと話す望月さんは、交通費のみ負担してくれれば、どこにでも演奏に行くとのこと。

前田源商店

月に1回朝市に来てお客さんや他の出店者と話すことが「生きる原点」になり1ヶ月のエネルギーになっているそうです。規模が大きくなっても当初の関係性が変わらない、この朝市が大好きとおっしゃっていました。

甲州市 ワイナリー探訪

kosshu city winery report

甲州市には実に多くのワイナリーがあります。醸造家の日々の営み、この土地への想いを聞きに、学生たちと一緒に訪れました。

vol.1 機山洋酒工業

Reporterは…

岡野佳歩さん

丸山愛さん

「感性のアンテナを立てて甲州市に入ってきてほしい」

機山洋酒工業
土屋幸三さん、由香里さん
PROFILE

山梨県出身の幸三さんと、兵庫県出身の由香里さん。二人とも発酵化学を学ぶため大阪の大学へ進学。卒業後、幸三さんは大手バイオ関連会社へ、由香里さんは大手清酒会社へ就職し研究員となる。お互い研究のために出向した醸造試験場で出会い、そして結婚。1994 年 8 月、幸三さんの実家であるワイナリーを継ぐため二人は甲州市の地で新たなスタートを切る。1996 年 6 月から 1 年間、由香里さんはオーストラリアの大学院でワイン作りについて学び、帰国後、二人のワイン作りが始まる。

●山梨県甲州市塩山三日市場3313
営業時間 9:00-17:00（定休日はありませんが、作業等の都合により試飲販売の対応が出来ない場合がありますのでご了承下さい）
TEL: 0553-33-3024 (9:00~17:00)／FAX: 0553-32-4119
http://www.kizan.co.jp

岡野　機山洋酒工業として創業したのはいつですか？

幸三さん（以下、幸）　昭和５年創業です。創業者は僕の祖父で、創業以前は甲府駅前で石炭屋を営んでいました。後々、石炭屋をたたみ塩山に戻ってぶどう作りを始めました。

岡野　なぜ石炭屋からワイナリーになったのでしょうか？

幸　昭和初期は、甲府盆地一帯でぶどう酒醸造場が乱立した時期で、約3000 ヶ所の醸造場がありました。土地や納屋を持つ人がこぞってワイン造りを始めたような感じだったのかもしれません。石炭、ぶどう、ワイン、それぞれ時代の流れや社会背景、経済状況に則って行われてきたということです。

丸山　家族経営ワイナリーということですが、現在二人はどのような役割分担で仕事をしていますか？

幸　ぶどう栽培もワイン醸造も最終的な意思決定は僕がしています。経理、ワインの分析・在庫管理は彼女が担当しています。 一人でできない仕事は二人で行い、適宜相談をしています。

丸山　家族経営ならではの大変なことはあるのでしょうか？

幸　仕事と生活が一体化しているため、仕事とプライベートの境がないことです。何も仕事をしない日はほとんどありません。

由香里さん（以下、由）　基本、年中無休です。二人で畑作業をしているときや仕込みを行うときなどお店が空っぽになるときは、お店だけクローズします。

幸　うちは“家業”です。家や家族を支えるための仕事をしています。企業は常に成長し、利益を追求し、従業員の生活を担う。僕らは家業で成長する必要はないんです。しかし、利益を上げ、堅実に家族の生活を支えていかなければなりません。

由　家族が一生懸命働いてお客さんに喜んでもらえるワインを造り、家族の生活を支えている。その延長線上に“地域”があると思うんです。子供も地域で育ててもらっているし、小学校の地域学習で生徒がワイナリーに来ることもあります。いろんなことが仕事とつながっていると感じています。

岡野　家業を継いで良かったこと、大変だったことを教えてください。

幸　大企業だと製造や販売のある一部分にしか関わらないけれど、僕は全部をやらなければならない。ぶどう農家さんや醸造機械屋さん、一般のお客さんとも話をする。ものづくりの全部を見渡すことは大きな所ではできない。あと家業なので、子供たちに自分たちの仕事を見せられるのは嬉しいです。大変なことは、全てにおいて小さな決断を沢山しなくてはいけないことです。人のせいに出来ない、全部自分のせい。実際、失敗という失敗は全部してきました。その失敗も受け入れつつ、お客さんに喜んでワインを買っていただかなければならないのが大変です。

岡野　お父さんの代と土屋さんご夫婦の代で、経営方針やワイン造りなどで変わったことはありますか？

幸　日常的に楽しめるものをしっ

かりと造り、直接販売できる部分は直接販売する。それを家族でやっていくというところは変わっていません。ただ、ワインのクオリティやぶどう栽培の細かい部分は変わってきています。ワイン造りは伝統工芸ではありません。代々積み重ねてきた技を追求し、前の代を乗り越えていくという世界ではなく、技術の革新や市場性も絡んでくるので時代と共に変わっていますね。

丸山　ワイン造りの中で、土屋さんのこだわりはどこにあるのでしょう？

幸　こだわりというのは、ひとつもないですね。ここをこうしなくてはいけないとか、ここをこうすればうまくいくというものがなくて、全部が大切なんです。ただやるべきことをきちんとやるということです。ただし、「ワイン造りは知的な妥協の芸術（The art of intelligent compromise ー）」という言葉があり、ワイン造りのすべての工程を完璧に行うことはできません。全体の中で本当にやるべきことを合理的に考え、全体として調和が取れた時に１つの作品ができると思います。

丸山　そういったワイン造りの仕事の魅力は何ですか？

由　とにかくやりがいのある仕事です。ぶどうを栽培してワインを造る流れは、山梨でも日本でも世界の他の地域でも同じことをみんながやっている。様々な縁で海外のワインに関わっている方々と話をするときに、共通の言葉で会話ができるんです。同じものづくりでも、ワインはインターナショナルで世界の言葉なので、幅広く人とつながることができるし、同じ仕事をしている人と同じような目線で話ができる良さがある。それはワインならではだと思います。ものを造る人間として、同じ志を持った世界中の人と同じ言葉で話せる面白さがあります。

岡野　長く住んでいる、甲州市の魅力はどんなところにありますか？

幸　僕の住んでいる松里は歴史が深い地域です。歴史が深いってことは人々の営みが積み重なっているということ。その積み重なった上に自分たちの生活があることを日々実感しています。そういうものが残っていて、感じることができる地域はそうないと思います。例えば、裏の小路や道端のお地蔵さんなど、江戸時代のものもあります。松里は渠（人工の水路）が張り巡らされていて、それはいつからあるのかわからないほど古いものです。そう考えるとワインなんてつい最近のものだと思い知らされます。“歴史に敬意を表しつつ生きていける”そこが魅力です。

由　子育てをするには最高の地域だと思います。程よく田舎で、程よくまちな部分が子供を育てるのには恵まれた環境です。子供が大きくなれば、東京までの距離も遠すぎず、都会でチャレンジしようと思えば自分でも行けるという良い距離感があります。また、この静かで落ち着いた土地は、じっくりものを考えるのに向いています。他人や都会の時間の速さに流されず、自分のペースで考えることができます。じっくり考えながら、じっくりものを造るにはすごく向いていると思います。そういう意味で働きやすく住みやすいです。

丸山　最後に移住希望者へのメッセージをお願いします。

由　地元のことを大事に思っている人が多いから、市外から来る人に対して比較的バリアがあり、心を開くまでに時間がかかることもあると思います。移住者にとって、そのハードルを乗り越えることも必要だし努力も必要だと思います。そのハードルを越えたらすごく良いコミュニティがありますよ。また、地域に入って行ったけどみんな冷たいし…ってそこで終わりにするのは若干我慢が足りないと思います。地元の人に直接ぶつかって行くのが難しいのなら、移住経験者や取っ掛かりになりそうな人にアドバイスをもらうのも良いでしょう。苦労して入ってくると良いことがいっぱいあるのが甲州市だと思います。

幸　とにかく足を運んでほしいです。自分たちなりの興味や感覚、感性を総動員して、アンテナを立てて来てほしいと思います。その人がこの地域の自然に反応するのか、歴史に反応するのか、人に反応するのか、ワインに反応するのか、それは様々だと思うけれど絶対に１つはあるはず。その人なりの“感性のアンテナ”を立てて、甲州市に来てもらえたら嬉しいですね。

砥草庵（とくさあん）

「日々そばを打つこと。
それがわたしのできること」

Reporterは…

樋川真結さん

渡辺智実さん

大塚郁弥さん

樋川　お店はいつから始めたのですか？

平山（以下、平）　平成 11 年７月からです。よくお客さんに古民家を移築したのかと聞かれますが、そうではなくて 100 年近く経った民宿の建物を取り壊して新築しているんですよ。

樋川　お客さんは、地元の人と観光客などでは、どちらの割合が多いのですか？

平　まあ、絶対数は観光客が多いです。でもね、どっちが多いとか少ないってことより地元の人たちがいつも来てくれるのが有り難いです。夜はね、地元の人たちが集まって飲んで、無尽なんかしています。地元でこういうお店はあまり多くないからね。

樋川　お店に関して、苦労することはなんですか？

平　経営そのものですね。僕はそば打ち職人なんです。でも経営者でもあるから。そば打ち職人の考えだけ

じゃうまくいかない。昔、そば職人として雇われていた時は、ちゃんと手打そばの良さが分からない人が、物珍しさで食べに来るなら別に来なくていいって思ったりもしましたよ。かなり職人気質でしたね。しかし、自分で経営するとなると話は違って「是非食べていってください。本当にありがとうございます」…。そりゃ人間が変わりますよ。経営者と職人を両立するのって難しいことなんですよ。職人は良い仕事をすることが大事で、それでお客さんが来てくれればいいけれども、いくらこだわって何したって、来てくれなければ経営が成り立たない。そこが一番苦労しますね。店を開けている時は職人で、店を閉めたあと経営者になる感覚ですね。

樋川　逆に嬉しいことはなんですか？

平　やはり、お客さんの「来てよかった、美味しかった」という言葉ですね。遠くから来てその言葉を言ってくれるお客さんもいます。それが一番やる気になります。昔は、そばが売り切れてしまうこともあって、そばを打つのに 30 分くらいかかったんだけど、待っているから食べたいって言ってくれるお客さんもいて。そりゃ、打ちますよ。そのお客さんは必ずまた来てくれます。山梨に来たから寄らせてもらったとか。そういうのが励みですよ。

樋川　そばのこだわりは何ですか？

平　そば粉とおつゆにこだわりがあります。そば粉は 10 割そばならば、この時期（8 月末）は信州の塩尻または辰野のそば粉を使っています。このようにそばの種類や時期によって、最適なそば粉を選んでいます。おつゆは主役じゃないけどもそばを引き立てる。おつゆに使うみりんは自家製で、醤油もヒゲタ醤油と奈良県の醤油を合わせている。薬味も地のもので基本的に間に合わせている。ここまでこだわるのは、美味しいもの、良いものを提供したいからです。

正真正銘の 10 割そば。時期によってそばを打つ時間が変わったりと、環境には常に敏感になってくる。

大塚　そば切り発祥の地として、どのようにそばを PR するといいと思いますか？

平　地元のそば粉を使ってそば切り発祥の地として PR するなら、確実に 1 年分のそば粉を生産して確保しなければいけない。そば切り発祥の地だからといって、自分から無理に地元のそば粉を使った PR はしないですね。いくら地元のものでも他の地域に良いそば粉があればそちらを使いますよ。お客さんにおいしいものを提供したいので。取材が来たらそばのことを話しますが、あくまで自然に伝えている感じです。

大塚　地域の行事にも出られるのですか？

平　生涯学習の一環としてそば打ちを教えたり、地元の伝統芸能を守る活動をしたりしています。ただ、何か必要があれば手伝えることはするけども、必要がなければ、つまり聞く人や興味ある人がいなければ、時間の無駄ですからね。逆に、分かっている人に頼まれたら、いくらでも時間を割きますよ。

渡辺　あらためて、甲州市は平山さんにとってどのような地域ですか？

平　甲州市は合併して、地域ごとの特色を活かして頑張っているんですが、大和は三市町村の中でこれ！というものが少ないと思うんですよ。勝沼と言えばワインやぶどう、塩山と言えば武田信玄の菩提寺。大和村には勝頼のお墓があるんですけどね～。やっぱり大和は知名度が少し低いところがあるので、特色があればいいなということで、そばも頑張っています。

渡辺　甲州市で暮らしている方々に対してはどのような印象を持っていますか？

平　もともと知っている人が多く、小中学校が一緒だったりして気心が知れてます。僕の知っている人の多くは口が悪いんですよ（笑）。でも口よりも気持ちですね。困っていることがあればお互いに助け合ったり、冗談を飛ばしたり。言っていることと思っていることが反対なくらい、気持ちの良い人ばかりです。「何かやろう」となればみんなで団結して、そのあとの飲み会は盛り上がりますね。

渡辺　そんな甲州市の良いところはどんなところですか？

平　まず、ワインやぶどうなどブランドになるものがたくさんあるところですね。山の方に行くと、富士山がすごく綺麗に見えるところもあるんですよ。自然など良いところがたくさんあるから、もっとアピールしないともったいないですよね。

渡辺　今後、甲州市を PR していくために何をしたらよいと思いますか？

平　イベントは後に続くものであればいいですが、その時だけで終わってしまうものはどうかと思いますね。イベント自体には人が集まりますけど、飲食店は逆だと思うんですよ。イベントでは必ず飲食店ブースを設けますよね、そうすると周りの飲食店には人が来なくなってしまうんですよ。人を集めることはいいことだと思います。ただ後につながるかどうかと考えると…。これからはイベントを活かして後につなげていく方法を考えなきゃならないと思いますね。新しいことをやるのは経験上、難しいんですよ。よっぽどの覚悟をもって取り組まないと厳しいと思いますね。

砥草庵　平山 博文さん PROFILE

そば切り発祥の地とされる甲斐大和の天目山栖雲寺の近くにある「蕎麦街道砥草庵（そばかいどうとくさあん）」。店名はご主人が修行した石和温泉のそば屋の親方に付けてもらったそうです。店名の由来となった「砥草」は、直立していて枝分かれしない植物だそうで、親方やご主人のそばへの真っ直ぐなこだわりがうかがえます。

砥草庵
●山梨県甲州市大和町田野243-1
営業時間 11:30～19:00　水曜定休
TEL: 0553-48-2414

甲州市で農業を通して生き方、暮らしを伝える

マル神農園

望月勝太さん

丸山愛さん

渡辺智実さん

Reporterは…

寒暖の差があり自然に近い環境で栽培している無農薬、無科学肥料で育てた生命力の強い野菜たち。一般の人でも収穫した野菜をコース内容によって自宅に届けてもらえるサービスもある。

マル神農園
PROFILE

山梨県甲州市塩山上小田原の標高 850 メートルもの土地で、古屋聡さん、雨宮陽一さん、岩波勇太さんの３人で有機野菜栽培に取り組んでいる。“旬の時期に旬の野菜”をテーマに、在来種や西洋野菜など年間 70 〜 80 種類の野菜を栽培。また、新規就農者や農業研修の受け入れや農業体験なども積極的に行っており、農業の魅力を発信し続けている。

渡辺　農業を始めたきっかけは何ですか？

古屋さん（以下、古）　家が農家で、子供の頃から畑に駆り出されていたんです。その後、東京に出ていたんですが、農業をやる人が少なくなり、家の周りにだんだんと耕作放棄地が増えている現状を見て、自分が農業をやって昔の景色を取り戻したいと思って始めました。

雨宮さん（以下、雨）　聞かれて一番困る質問なんですけど（笑）。古屋君とは高校の頃からの友達で、25歳くらいの時に一緒にお酒をのんで、帰りに「何か面白いことしようか♪」と話をしたのがきっかけですかね。古屋君はその時には農業をやる、と決めていたので、じゃあ農業をやりながら何か他の楽しいことしよう、と思ったんです。本当に、酔っぱらった勢い、という感じです（笑）。この地は寒暖差が激しいので、朝と夜の温度差によって美味しい野菜を作ることができるんです。

渡辺　農業の魅力はどんなところにあるんですか？

古　日々風景が変わっていくのが楽しみですね。山の景色であれば、少しずつ色付いていって葉っぱが落ちたり。最初は小さかった野菜がどんどん大きくなっていたりして。野菜はすごく可愛いですね。頬ずりしたいくらい可愛いです（笑）。芽が出ただけでも嬉しいです。たまにいっぱいできすぎて追い込まれたりもしますけど、倉庫のじゃがいもがどんどん売れていったりすると嬉しいですね。あとお客さんとダイレクトで商売しているので、野菜を買ってもらったお客さんの声を直接聞けるのはやりがいになります。マル神農園の野菜からエネルギーをもらって頑張っているという声を聞くとたまらないですね〜。人に

感謝されたり、ありがとうと喜ばれることがとてもやりがいになっています。

雨　自分で作った野菜を自分で食べられるところが面白いですね。変わった野菜が結構好きなのですが、それがみんなに美味しいと言ってもらえたり買ってもらって、広まっていくのも嬉しいです。畑に行って土を触っているのも好きだし。スーパーで売ってないものを畑でそのまま食べられることは贅沢だなと思います。子供が「野菜を買って」とお母さんに駄々をこねているのを見たり、野菜を克服したという話を聞くと嬉しいですね。美味しいものを食べて不幸になる人はいないし、美味しいものを食べて笑って幸せになって…最高じゃないですか。

古　農業の苦労は毎日で本当に大変だけど、楽しいことの方がずっと多い。これまで農業ほど長く続いた仕事はないですね。

望月　甲州市のイメージ、魅力はどんなところにあるのでしょう？

古　『何も無いのがあるところ』かな。というより、『何も無いからこそ、気づけること』が魅力かな。便利なものは何も無いけど、『心を“ポッ”とさせるもの』はあるよね。南アルプスとか大菩薩とかそこから見る富士山とか自然も綺麗だし。

雨　あと自分の口に入るものが自分の目の届く範囲で全て作られてて、しかもそれを自分で選んで食べられるっていうのは大きな魅力だって思うよね。あとは、“人”かな。甲州市の人はシャイ。うん、シャイ（笑）。でも、それを越えると家族みたいに接してくれる。すごい人が優しい。

古　県外の飲食店などでも野菜を買ってもらうことがあって、その接点から甲州市でのイベントに東京の方が来てくださったりして。そういう時嬉しいよね。都会からも一時間半で来れるから、俺達もイベントで東京にも行きやすいし、この近さはとっても便利。この土地でこれからも変わらずに、地道に農業を続けていければいいなーと思ってます。

マル神農園は毎年11月23日（勤労感謝の日）に甲州市神金地域で行われる「農民ダイナマイト」というフェスを開催しています。ライブあり、美味しい飲食の出店あり。県内外問わず多くの方がいらっしゃるので、気になる方はぜひ足をお運びください。

マル神農園　TEL：0553-39-8671　FAX：0553-39-8671　marukaminouen@gmail.com
最新情報は facebook ページで：https://www.facebook.com/marukami.nouen

甲州市の暮らしの中に根付いた、歴史や文化、自然を見つけよう！

FiND iT! KOSHU CiTY

自然 NATURE

どの季節でも
自然が美しい場所

総面積の約８割を森林が占める甲州市は、中里介山の長編小説「大菩薩峠」で有名な大菩薩をはじめ、大蔵高丸などの山々を有しており、それぞれの頂上から望む富士山や南アルプスは絶景と好評で、年間を通じて多くの登山客が訪れています。また、ツツジの群生地である三窪高原や、春から秋にかけて多彩な花が咲き誇る湯の沢峠、四季折々に表情を楽しめる日川渓谷「竜門峡」など、豊かな自然に囲まれています。さらに、ぶどうやもも等の果樹園が里山に広がる独特の風景は、個性豊かな農村景観として親しまれています。

果実 FRUIT

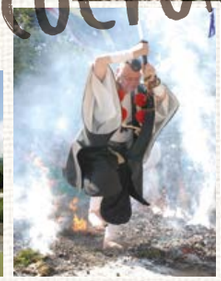
フルーツ王国
甲州市

「フルーツ王国やまなし」の代表地である甲州市は、いちご、さくらんぼ、もも、すもも、ぶどう、柿などの果樹栽培を中心とした農業が基幹産業であり、季節に応じたフルーツ狩りが楽しめる日本有数の果樹産地です。また、日本ワイン産業発祥地・甲州市産のワイン品質の高さは国内外で高く評価されていて、その優しい香りと味わいは多くのワイン愛好家を魅了しています。市内には 150 ヶ所を超える観光農園や、約 40 ヶ所のワイナリーがあり、様々な味覚を楽しみに毎年多くの観光客が訪れています。

歴史文化 HiSTORY & CULTURE

甲州市には、甲斐の国を治めた武田家ゆかりの神社仏閣が多数存在しています。信玄公の菩提寺である恵林寺をはじめ、武田勝頼公の菩提寺の景徳院、日本最古の「日の丸の御旗」などを有する雲峰寺など、すべてが貴重な歴史文化財であり、武田家と甲州市のゆかり深さを感じることができます。また、国内のワイン産業にまつわる産業遺産等なども数多く点在し、甲州街道など悠久の時とともに、いにしえの文化と先人たちの足跡が今に残る歴史に彩られたまちです。

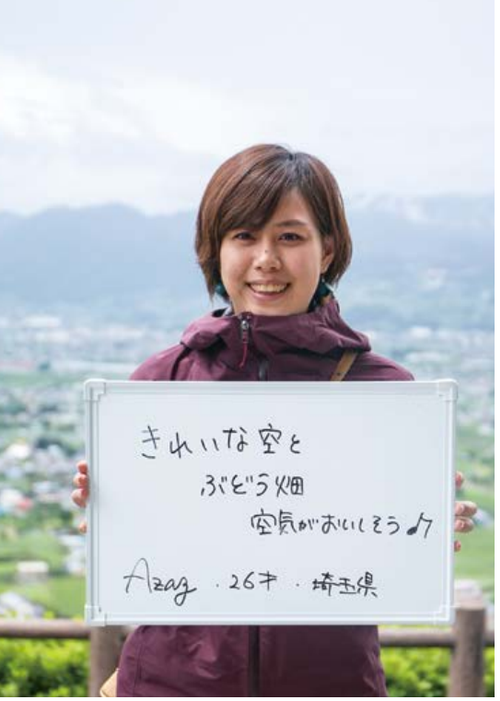
知れば知るほど
深みのあるまち



暮らし LiFESTYLE

暮らしやすさは
支え合う心から

「地域ぐるみで支え合う心」が暮らしのなかに息づいている甲州市。子育て中のお母さんやお父さんには、充実した子育て支援サービス。高齢のみなさんには、健康で快適に暮らす生活支援。若者の仲間が楽しく交流できる環境づくりなど、誰もが満足できる「安心」があります。「甲州市で子どもを産み、育てる」「甲州市に住んでよかった」などなど、大きな笑顔があふれ、活力に満ちた「暮らし」が甲州市にはあります。



TO WRITE about City of KOSHU

甲州市へ遊びに来た人、甲州市にふだんから住んでいる人、それぞれにいくつかの質問をして、メインの質問には自分の言葉でボードに書いてもらいました。リアルな甲州市のイメージが浮き彫りになるかも!?

Reporterは…

望月勝太さん

渡辺智実さん

丸山愛さん

小島惟さん

雨宮育世さん

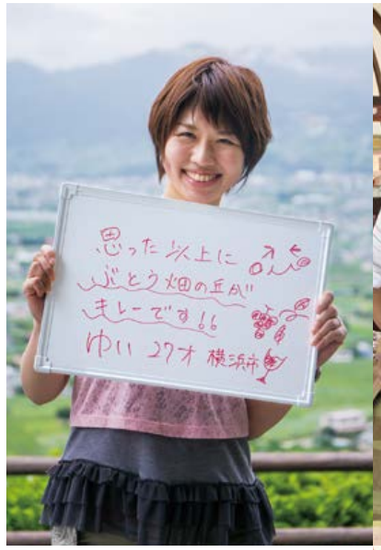
岡野佳歩さん

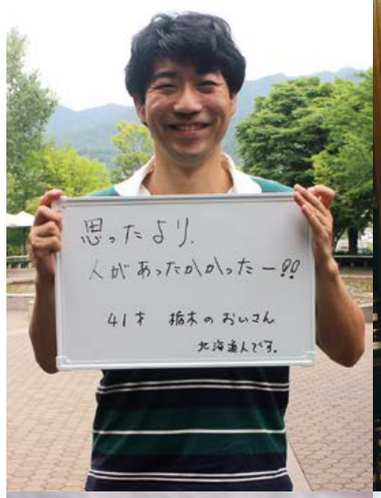
甲州市へ遊びに来た市外の人編

Q

甲州市へ実際に来てみて、あなたが感じた甲州市の印象は？
（取材協力／甲州市勝沼 ぶどうの丘）

県外や市外から多くの人が訪れる勝沼 ぶどうの丘で、甲州市に実際に来てみて感じた印象を聞いてみました。初めて来る人、たまに訪れる人などから様々な印象が聞けました。





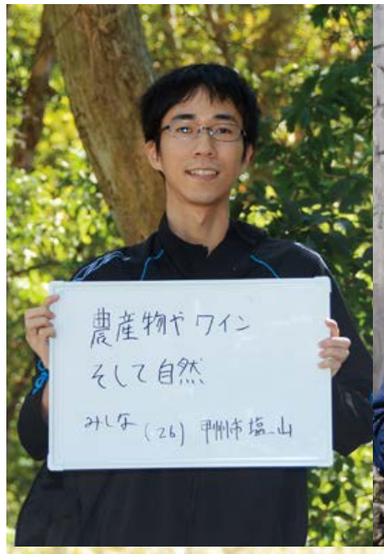
TO WRITE about City of KOSHU

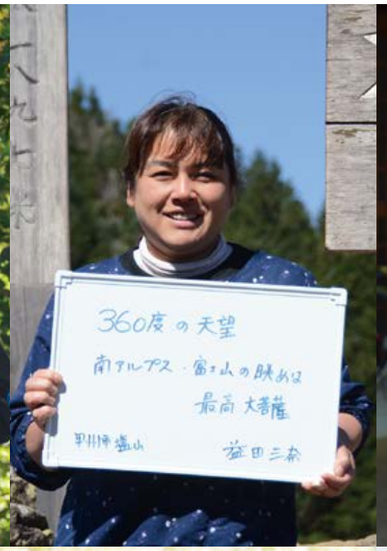
甲州市に住んでいる人編

Q

実際に住んでいるからこそおすすめできる、甲州市で見てほしい風景や行ってほしい場所はどこですか？

甲州市に住む人には、好きな場所がそれぞれあります。甲州市に住んでいるからこそ見ることができる、おすすめの場所や風景を聞いてみました。



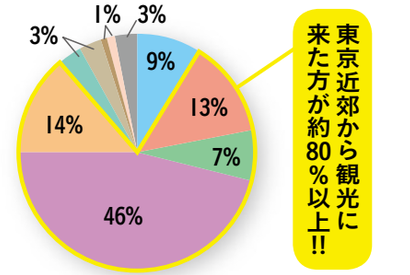


TO WRITE about City of KOSHU

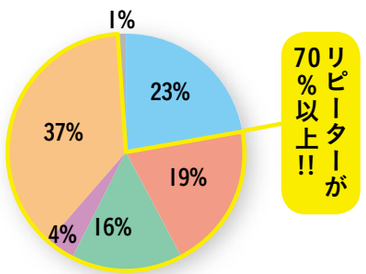
甲州市へ遊びに来た市外の人編 アンケート結果

（ご協力いただいた方：70名）

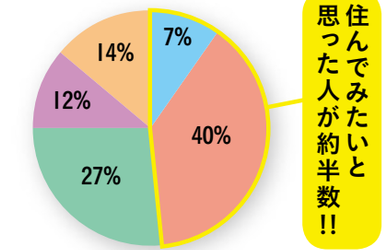
Q1. どこから来ましたか？



Q2. 来るのは何回目？



Q3. 甲州市に住んでみたいと思いますか？



Q4. 甲州市のイメージは？

ぶどう …47%

ワイン …16%

桃 …6%

その他 …31%

甲州市へ観光に来た方は東京や神奈川、千葉、埼玉など東京近郊の方が多かったです。その中には「ふらっと立ち寄った」という方もいて、「東京近郊の方にとっては気楽に立ち寄れる場所である」ということが分かりました。20代～40代の方が多く、「ワインやフルーツを求めて来た」とおっしゃっていた方も多かったです。これを読んでいる皆さん、ぜひ一度、立ち寄ってみてはいかがでしょうか。（集計担当：望月）

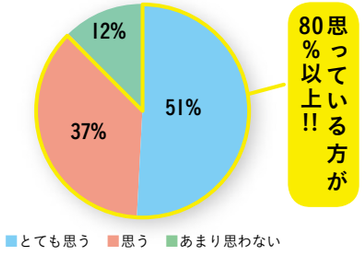
TO WRITE about City of KOSHU

甲州市に住んでいる人編 アンケート結果

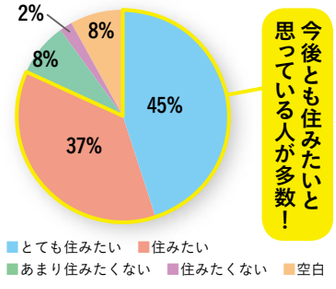
（ご協力いただいた方：51名）

実際に甲州市に住んでいる方の甲州市のイメージはバラエティに富んでいました。実際、甲州市外から来た方の3倍近い種類のイメージが出てきました！ 地元民だからこそ気づく意見、「住みやすい」「これからも住みたい」などの声をたくさん聞くことができ、地元愛に溢れた甲州市を実感することが出来ました。（集計担当：望月）

Q1. 甲州市を住みやすい街だと思いますか？



Q2. 甲州市にこれからも住みたいと思いますか？



Q3. 甲州市のイメージは？

ぶどう …18%　フルーツ …16%　自然 …14%

ワイン …4%　桃 …4%　その他 …48%

アンケートした方々がそれぞれ多種多様な回答を持っていた！

これで安心、解決！ 甲州市の移住に関する何でも相談。まずはチェック！

教えて！甲州らいふ

田舎暮らしをしてみたいけど、わからないことがたくさん。そんな疑問や、子育てのこと、住む場所の探し方など、甲州市に住む（甲州らいふ）ための情報をお届けします。

実際に移住を検討されている方からよく聞かれる質問にお応えします。

Q. 現在子育て中です。甲州市には、どんな子育てサービスがありますか？

A 甲州市には、安心して妊娠・出産・子育てができる充実した母子保健・子育て支援の体勢が整っています。主な子育て支援は次のとおりです。

- **妊産婦新生児訪問事業**…妊娠中2回、新生児期に2回、2ヶ月児に1回、保健師と助産師の訪問が受けられます。
- **ママの安心テレホン**…妊婦さんや産後ママの不安解消のため、電話相談ができます。
- **マタニティークラス**…妊娠や出産についての詳しい知識やお産のためのコツ、育児情報や実技指導などを実施しています。
- **産前・産後ママのほっとスペース**…妊婦さんや産後のママが赤ちゃんと一緒に気軽に立ち寄れ、助産師や保健師の専門相談も受けられます。
- **乳幼児検診**…3ヶ月、7ヶ月、1歳6ヶ月、3歳、5歳児を対象とした健診や2歳児親子歯科検診を実施しています。
- **育休学級**…育児の知識や制度の学習、育児相談、仲間づくりの場を提供しています。

Q. 田舎暮らしをしたいと思ったら、まず何をしたらいいでしょうか？

A 何を目的に移住するか、仕事や移動はどうするかなど、まずは自分がどんな生活をしたいかイメージしてみてください。その生活がこの地域で実現できるかどうかを考えてみてください。

Q. 交通機関はどのようなものがありますか？マイカーは必要ですか？

A 市民バスを運行していますが、本数に限りがあります。事前に電話予約して利用するデマンドバス（塩山地域のみ運行）もありますが、マイカーがあれば移動の融通はしやすくなります。

Q. 地域になじむにはどうしたらいいですか？

A 引っ越してきた自分が新参者という意識を持ちつつも、地域の住民に対して壁を作らずに接していくことが大切です。また、地域の行事に積極的に参加することで、住民と接する機会が増えてつながりが強まります。

Q. どのような気候ですか？

A 夏は暑く、冬は寒いなど盆地特有の寒暖の差が大きいです。このため、ぶどうなど果樹栽培が盛んになっています。年間の降水量は少ないのですが、夏から秋にかけて集中豪雨が発生することもあります。

Q. 買い物ができる場所はどれくらいありますか？

A 各地域にスーパーマーケットやコンビニエンスストアが点在しています。洋服や電化製品などは、地域によって店まで、やや長距離の移動を要することがあります。

Q. 農業を始めたい場合、まず何をすればいいでしょうか？

A 甲州市では就農定着支援制度推進事業を実施しています。優れた技術を持つ農業者（アグリマスター認定者）の指導の下で、就農に必要な実践的な技術を習得するのを支援するもので、毎年研修生を募集しています。その他、農地の賃借や就農に関することは、市役所もしくはJAフルーツ山梨（農協）にお問い合わせください。

Q. 住宅や土地を探すためのよい方法はありますか？

A 不動産会社にご相談ください。その他、甲州市では空き家バンクを実施していますので、空き家バンクに登録されている物件にご希望のものがあれば、宅建協会が仲介の上、交渉することができます。

知ってて
安心、充実の
自治体サービス

甲州市の支援制度

移住を考えたとき、思いつくのが「自治体の支援サービス」です。住宅の購入やリフォームはもとより、子育て、福祉など、甲州市では定住・移住に関する様々な支援制度があります。甲州市に移住を考える方は、ぜひご覧ください。

子育て

産前産後

●妊産婦・新生児訪問指導
●ママのあんしんテレフォン
●妊婦健診の助成　●マタニティークラス
●産前・産後のママのほっとスペース
●ファミリーサポート制度

助成制度

●児童手当　●子ども医療費助成制度

住まい

甲州市住宅リフォーム

市民の居住環境の向上を図るとともに、本市の経済の活性化に役立てるために、市内の施工業者により行う住宅リフォーム工事費の一部を補助します。

対象住宅の増築、一部改築、改修、修繕、模様替え、設備工事等の対象工事費が 20 万円以上（消費税含む）のリフォームで、市内の事業所によりリフォームを行う工事。

●**リフォーム補助**…最高限度額 10 万円（工事費 1 割）
●**木造住宅耐震リフォーム補助**…最高限度額 20 万円（工事費の 1 割）
●**空き家住宅リフォーム補助**…最高限度額 20 万円（工事費の 2 割）

※補助金額は、千円未満の端数は切り捨てとなります。

働く

就農定着支援制度（アグリマスター制度）

市では、就農を希望する方への農業技術の習得等を支援するため、優れた技術を持つ農業者（アグリマスター）の指導の下で、就農に必要な実践的な技術を習得する長期研修の支援制度を実施しています。

●**支援内容**
①栽培技術の習得研修　②農業経営管理手法の習得研修　③農作物の流通・販売に関する研修
④その他研修生の自立に認められる研修など　※研修期間中の研修手当として、1 ヶ月あたり 5 万円を支給します。

空き店舗

市では、商店街の活性化と活力あるまちづくりのため空き店舗を利用した新規事業者に補助金を交付します。なお、事前に認定を受ける必要があります。

まずは
住む場所を
チェック！

空き屋バンク制度

市では、賃貸もしくは売却を希望する空き家の所有者（建物の有効活用）と、田舎暮らしを希望するみなさんが出会えるよう、建物の有効活用と定住促進を目的に空き家の情報提供と移住希望者への情報発信をする、空き屋バンク制度を設けています。

空き家バンクの制度概要図

【空き家バンクについてのお問い合わせ先】
甲州市役所 市民課人口対策室 ☎ 0553-32-5037　Mail： shimin@city.koshu.lg.jp
甲州市ホームページ内 **特設ページ「空き家バンク」**もご覧ください。
アドレス（甲州市 HP） http://www.city.koshu.yamanashi.jp/

甲州市の概要 -Summary-

●人口	33,346 人（平成 27 年 10 月 1 日現在）
●面積	264.01 平方キロメートル
●年間平均気温	13.7 度（勝沼地点／平成 24 年記録／気象庁発表）
●教育環境	保育所・保育園・認定こども園・小学校・中学校・高校・短期大学校
●鉄道（JR 中央線）	甲斐大和駅／勝沼ぶどう郷駅／塩山駅
●自動車	中央自動車道・勝沼 IC
●バス	新宿から甲州市への高速バスが運行。

甲州市の施設 -Facirity-

●公立保育所	4 ヶ所	●県立短期大学校	1 校
●市立保育園	8 ヶ所	●病院・診療所等	32 ヶ所
●認定こども園	1 ヶ所	●図書館	4 ヶ所
●児童クラブ	14 ヶ所		
●市立小学校	13 校		
●市立中学校	5 校		
●県立高校	1 校		

甲州市 MAP

都心から約90分。

四季で様々な表情を持つ
山梨県甲州市へ。

「関東の富士見百景」に選ばれた、眺望のすばらしい高原です。

二宮高原 Ninomiya kougen

山梨のぶどうのみを使った、まさに地球に根ざしたワインが味わえるワイナリーです。

塩山洋酒工業 Enzan Wineries

甲州民家の代表作。国の重要文化財に指定されています。

甘草屋敷 Kanzo Yashiki

中華系の大衆食堂です。湯麺や炒麺が人気。

塩山館食堂 Enzankan Shokudou

中央本線

塩山駅

お酒の種類が豊富な駅近店。焼き鳥も絶品です。

半蔵 Kuzo

築200年。国登録有形文化財のカフェで、甲斐ワイナリーの全ての銘柄をいただけるおしゃれなお店です。

ワインカフェ古壷 (coco)

ワインにちなんだアクセサリーをはじめ、カフェや体験工房、ワイン庫もあります。

葡萄ワイングラス館 Budou wineglass kan

観光客に人気のほうとう屋さん

一味屋 Kazumi ya

勝沼ぶどう郷駅

甲斐大和駅

初心者でも登りやすい！登山後の温泉も最高ですよ

富士山がきれいに見えるスポットです。

富士山がきれいに見える!!

大菩薩 Daibosatsu

人気の登山スポットです。

乾雲寺 Jounji

木通ひと葉の記念碑があります。

すこぶる イザヨウ

天目山温泉 Tenmokuzan spa

標高1000メートルの深山で最高級の高アルカリ性のお湯をどうぞ。

徳差庵 Tokusa-an

全工程がなんと手作業。こだわりのおそばが食べられます。

景徳院 Keitokuin

戦国武将 武田勝頼のお墓があります。

道の駅 甲斐大和 Michino eki Kaiyamato

お土産の他にも、農産物や特産品の直売があります。

宮光園 Miyakouen

日本の本格的なワイン醸造のルーツを知ることができる資料館です。

大黒屋サンガ Cafe Daikokuya sangum Cafe

江戸時代から続く古民家を改装し、カフェとゲストハウスを営んでいます。本格カレーを味わうことができますよ。

パンテーブル Pan Table

天然酵母のパン屋さんです。

レストラン鳥居平 Restaurant Toriitaira

落ち着いた空間で本格フレンチがのまれます。

ヤギもいるよ

大善寺 Daizenji

本堂はなんと国宝。民宿も営んでいます。

イラスト作成
小島惟さん

鉄道　市内には、甲斐大和駅、勝沼ぶどう郷駅、塩山駅と3つのJR中央本線の駅があります。新宿から特急で約90分の距離にある塩山駅には上下線合計で約30本の特急が停車し、行楽シーズンには勝沼ぶどう郷駅にも特急が停車します。年間では約100万人の方が駅を利用されるほど市民はもとより、観光客にとっても重要な交通機関です。

中央自動車道・国道など　甲州市内には、南部を通過する国道20号、中央部を横断する国道411号、北西部を通過する国道140号など基幹道路があり、首都圏を結ぶ中央自動車道（勝沼IC）があります。また、勝沼ICと各基幹道路を結ぶ「フルーツライン」は、眺望にも恵まれていることから観光客など多くの方々に利用されています。

「甲州らいふ♪ つたえ隊」が
取材中にふと見つけた魅力

Photo DIARY

それぞれの目線で撮る
甲州市の人、場所、もの。

この桃の色！

小島惟さん

農家での取材中に思わず撮影してしまった桃です。加工ゼロでこの色はすごい！さすが山梨、甲州市！

頭上に注意！！ ぶどう棚の中に紛れたかぼちゃ。落ちてこないかな〜。ちょっと心配だけどこれぞ甲州市ならではの風景！？ 一緒に育ったぶどうとかぼちゃ、どっちが甘いのだろう…？

岡野佳歩さん

ぶどうと一緒に育つかぼちゃ

駅でぶどうを発見！

渡辺智実さん

甲斐大和駅で発見。鉢でぶどうを育てているのは初めて見ました！可愛らしいです。

望月勝太さん

大善寺近くの大きな滝。田舎のおばあちゃん家に夏休みに行った時、あまり面識のない地元の同級生に「ここから飛び込む度胸無いだろ、都会ヤロー！」と揶揄されそうな代物でした。ちなみに下にいるのは私です。

飛び込むには高すぎ！

景色が最高な場所

丸山愛さん

勝沼ぶどう郷の素晴らしい景色です。ぶどう畑と山々、そして青空が見事にマッチしています。空気も澄んでいて、思わず深呼吸してしまいました！

「恋人の聖地」発見！

勝沼ぶどう郷駅から歩いて15分ほどのぶどうの丘に「恋人の聖地」がありました！ここから眺めることができる景色は絶景です。ワインを飲んで、景色を楽しむ「大人のデート」を甲州市でしてみませんか？

鶴田修平さん

雄大な自然！

緑の木々が生い茂る山々をバックに元気に咲き誇る紫陽花。

樋川真結さん

えんざん朝市にて

大塚郁弥さん

えんざん朝市での流しそうめん。多くの子供たちがそうめんに集まりました。そうめんおいしそうですね。

雨宮育世さん

空に飛行機雲

青空のもとを流れている飛行機雲。どこまで、続くのだろうか。幸せを運んでくれたらいいのにな…。

幻想的な世界へ…

金子 萌さん

どこか違う世界への入り口みたい。この先はどこに続いているのかな？緑の隙間から覗く太陽の光がとても綺麗でした。

甲州市の人や暮らしを伝える

甲州らいふ

koshulife

ご自由にお持ちください

TAKE FREE

甲州らいふ　Vol.02　発行日：2015年11月1日
発行元：山梨県甲州市役所 政策秘書課　編集チーム：山梨県立大学　デザイン／写真／取材補助：BEEK DESIGN
【お問い合わせ】山梨県甲州市役所 政策秘書課　☎0553-32-2111（代）　https://www.facebook.com/koshulife